

しまをよむ

— 結び合わされたオキナワイメージを読みほどもく試み —

大城 さゆり

沖縄県立博物館・美術館学芸員。担当した展覧会に「稲嶺成祚展 きごうの、ふうけい。」などがある。

船行き交う海に面した空間に、端正な線、穏やかな色味の作品が楚々として並ぶ。那覇出身の泉川のはなと宮古島出身の八木恵梨、二人の作品は静かながらも互いのオキナワイメージを響かせ合っている。

沖縄と聞くと青い海、白い砂浜、フルーツ…と多くの者が南国楽園のイメージを抱くだろう。それらはあくまで画一化された観光イメージであって、生活者が見ている光景は例えば地域行事や都市化、基地など、複雑な時間や場面や変化が積み重なっている。

移動手段が発達し人々が行き交うにつれて、自らが培ってきたイメージと他者が持つイメージもまた出会い、そのズレやブレを意識せざるを得ない状況が避けがたく起こる。しかしそのブレこそが、二人の作家が抱く原風景としてのオキナワを揺さぶり、否定なしに自己のオキナワを問直しさせる。果たして「私」の中の「オキナワ」はどのような像を結び、あるいはどのような揺らぎを見せるのか。描かれたモチーフから、二人の作品を読みほどもいていきたい。

泉川は大学進学により山形で過ごす中で、友人から聞くステレオタイプなオキナワと記憶にあるオキナワの間に蠢く複数のブレに気づき、オキナワをテーマに描くようになる。

今回展示されたシリーズに登場する「身人頭鳥」は、日本で14世紀頃に描かれた地図に記された、化外の地に棲む異形としての琉球人（地図上では「龍及」表記）の姿である。鳥の配色は野鳥イソヒヨドリが基となり、青い体に赤い腹が特徴的だ。背景の植物は夾竹桃で、沖縄では米軍基地のフェンス沿いに目隠しとして植えられてきた。加えて花粉や樹液の毒性ゆえに「自腫木^{ミヅフクラギ}」とも呼ばれる。身人頭鳥の腹はまるでこの毒花を食べて染まったかのようなようである。

その身人頭鳥は美しき毒花の上に横たわり、伏し目がちに微睡んでいる（決して目を閉じてはいない）。その姿は外から見られる存在としてのオキナワ（身人頭鳥）と、これまで見てきたオキナワ（夾竹桃）の、夢と現の間で自己像を模索する作者自身の投影でもある。新作《集められた吐息》では、ついに身人頭鳥は抜け落ちた羽をかき集めて自ら像を作ろうと動き出した。

もう一方の新作《土の柄》は、板に沖縄の土などから作った絵具を用いて夾竹桃と身人頭鳥が描かれる。床に置いているのは、これが地に埋まっていた化石だからであろう。土地そのものが持つ長い時間軸の上に身人頭鳥の営みが刻まれている。

この化石を発掘し、分析し、スケッチした架空の「学者」がいる。八木は、泉川とのコラボ作品として想像上の学者による化石のスケッチを制作した。

宮古島で育ち、小学生の時に東京に移り住んだ八木は、東京と宮古島を幾度も行き来して過ごしてきた。一つ一つのモチーフには、宮古島で過ごした記憶をベースにオキナワを探し回る八木の主観が当然に入っている。

しかし八木のオキナワが客観的に見えるのは、学者という架空の存在の目を通して「発見」された事物を描いているからだ。あくまで学者がそれを見たかのように淡々と約300点もの絵を制作した。

学者は異文化発見者であると同時に、自文化探究の面を持つ八木とイコールの存在でもある。ここでは自としてのオキナワ、他としてのオキナワが重なり合っていく。

発見され収集されたオキナワの事物の集積《Island of collage》は、かつての博物画のような絵画群で、そこには宮古島の民具もあれば、米軍がもたらした食材であるスパム、東京の沖縄料理屋が出すコーヒード入り泡盛、八木の祖母宅の石蔵もある。人々が行き来するからこそ現れた約300点の事物が、学者（＝八木）が見たオキナワの総体として壁一面に立ち現れる。

収集した事物を繋ぎ、体系化してストーリーを生み出しているのが新作3点であり、それぞれ「海」「果物」「花」がテーマとなっている。例えば《蛸の祭壇》を人体の博物画に見立てれば、心臓の位置に主役である蛸がある。イモガイが結ばれた縄は蛸釣りのための道具で、蛸を誘い出したり抱きつかせたりして捕らえる。捕えられる食料としての蛸と、画面で起点となる蛸、モチーフ一つ一つが結ばれ循環し、海の営みを祀った祭壇となる。

漁具の網をフェンスに見立てた《果物の網》、風に散らされる花が舞い上がる《花の扇風機》…。海、果物、花は一見、ステレオタイプな南国のテーマと思いきや、漁や基地や強風といった別のオキナワが浮かび上がってくる。

見られる客体としてのオキナワと、見る主体としてのオキナワとのブレは確かに違和を生じるが、二人はそれを否定的には捉えない。むしろそのブレを味わい、飲み込み、結び合わせて自身のオキナワイメージを再構築し続けている。